

東洋紡のRO膜開発秘話を披露

神戸大先端膜
工学研究機構

第8回MBTAを開催

国内唯一の膜工学研究拠点として、産学連携で膜工学の先端研究と人材育成を推進している神戸

大学先端膜工学研究推進

機構は5月17日、第8

回MBTA（メンブレ

ン・ビジネス&テクノロ

ジー・アカデミー）を大

学内で開催した。今回は

「RO膜開発の秘話」を

テーマに、東洋紡関係者

による海水淡水化膜の講

演などが行われ、関係者

ら約60人が聴講した。

冒頭、松山秀人・同機

構長は「RO（逆浸透）

膜は正浸透膜、高濃度海

水処理の塩水濃縮膜など

に応用されており、膜技

術開発や社会

実装の進め方

などを参考

に」とあいさ

つ。

続いて、北

河享・神戸大

学大学院科学

技術イノベー

ション研究科

特命教授がM

BTAの開催

趣旨として、

実装を想定し、ビジネス

の考え方と膜技術発展の

方向性について、202

2年度からテーマごとに

議論していることなどを

紹介。また、RO膜の開

発背景事情として、東洋

紡が1971年からRO

膜の研究開発を開始し、

繊維製造で培った技術

を、中空糸機能膜などの

製造に転用してきた歴史

などを説明した。

続いて、関野政昭・元

東洋紡取締役執行役員が

「海水淡水化膜（SWR

O）モジュールと共に」

と題して講演。関野氏は

1972年の入社以来、

海水淡水化膜をはじめ、

RO膜の基礎開発・生産

技術などに携わってきた

経験を踏まえ、実証実験

や失敗の最小化などの必

要性を指摘した。

また、同社の製品を導

入した福岡市海水淡水化

プラントが20年間、運転

継続中であることに触

れ、若手技術者や研究者

への期待として、「自ら

を駆り立て、深掘りを進

約60人が聴講したMBTA



関野氏



松山機構長